

株主の皆様へ

**市場の変化に先駆けた“改革”が、
今、確かな成果を結びつつあります。**

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

コーセーグループの平成22年3月期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)の営業概況と次期の見通しについて、ここにご報告いたします。

当期(平成22年3月期)の営業概況

当期における日本経済は、企業収益が回復するなど景気に持ち直しの動きがみられたものの、雇用・所得環境は依然として厳しく、消費者物価の下落や個人消費の低迷が続きました。化粧品業界においては、平成21年度の経済産業省化粧品出荷統計(暦年)によると、販売個数は微増でしたが、販売金額は大幅に減少しました。

このような環境下、当社グループは、中期経営方針に基づく経営改革を進め、多様化する市場や生活者ニーズに柔軟に対応するとともに、経営資源の最適配分を推進し、経営効率の向上と収益力の強化に取り組みました。



当社グループの業績については、景況感の悪化にともない個人消費が弱まったことや円高の影響もあり、売上高は1,725億64百万円(前年同期比3.1%減)となりました。なお、為替の影響を除くと前年同期比1.8%減となります。

海外売上高は、中国などアジアが伸長しましたが、為替の影響を受けて円換算後の連結売上高に占める割合は10.8%となりました。

利益については、厳しい環境下でも利益を確保できる体質への改善に取り組みましたが、売上高の減少と売上構成の変化による原価率の上昇などにより、営業利益は101億32百万円(同17.6%減)、経常利益は108億32百万円(同9.9%減)となりました。また、物流業務のアウトソーシング化にともなう固定資産の減損損失を計上した一方で、法人税等および少数株主利益が減少したことにより、当期純利益は51億54百万円(同8.7%増)となりました。

当期の期末配当については、1株につき普通配当20円といたしました。平成21年12月10日付で、1株につき20円の間配当を実施しておりますので、年間配当は40円となります。

次期(平成23年3月期)の見通し

企業収益の改善が続き景気は持ち直しつつも、一方でデフレの影響による下振れリスクや雇用情勢の先行きに不安要素を抱えています。また、化粧品市場においても、平成22年1~3月の経済産業省化粧品出荷統計(速報ベース)による販売金額は、前年同期に比べて減少しながら推移しています。

当社グループは、このような状況においても経営改革を推進し進め、多様化する市場や生活者ニーズに柔軟に対応するとともに経営資源を有効に活用し、経営効率の向上と収益力の強化を図ってまいります。

平成23年3月期の業績見通しは、売上高1,784億円(前年同期比3.4%増)、営業利益110億円(同8.6%増)、経常利益111億円(同2.5%増)、当期純利益59億円(同14.5%増)を予想しております。配当については、年間配当40円を予定しています。

当社グループは、“自ら革新し続けていく” 伝統のもと、さらなる取り組みを進めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年6月

代表取締役社長 **小林 一俊**